



平成26年11月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年10月10日

上場取引所 東

上場会社名 津田駒工業株式会社

コード番号 6217 URL <http://www.tsudakoma.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 菱沼 捷二

問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役専務 総務部長 (氏名) 竹鼻 達夫

TEL 076-242-1110

四半期報告書提出予定日 平成26年10月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年11月期第3四半期の連結業績(平成25年12月1日～平成26年8月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年11月期第3四半期	26,075	△7.5	△1,008	—	△1,059	—	△1,163	—
25年11月期第3四半期	28,185	5.8	△692	—	△742	—	△775	—

(注) 包括利益 26年11月期第3四半期 △1,235百万円 (—%) 25年11月期第3四半期 △211百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年11月期第3四半期	△18.20	—
25年11月期第3四半期	△12.14	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年11月期第3四半期	36,089		14,901			38.5
25年11月期	42,435		16,006			35.3

(参考) 自己資本 26年11月期第3四半期 13,909百万円 25年11月期 14,996百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年11月期	—	0.00	—	0.00	0.00
26年11月期	—	0.00	—	—	—
26年11月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 平成26年11月期の連結業績予想(平成25年12月1日～平成26年11月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	35,500	△13.8	△1,400	—	△1,450	—	△1,550	—	△24.24

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年11月期3Q	68,075,552 株	25年11月期	68,075,552 株
② 期末自己株式数	26年11月期3Q	4,157,082 株	25年11月期	4,155,637 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年11月期3Q	63,919,126 株	25年11月期3Q	63,920,765 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P 2
(1) 経営成績に関する説明	P 2
(2) 財政状態に関する説明	P 3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P 3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	P 4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	P 4
3. 四半期連結財務諸表	P 5
(1) 四半期連結貸借対照表	P 5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P 7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P 9
(継続企業の前提に関する注記)	P 9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P 9
(セグメント情報等)	P 9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、一部で消費税増税の影響が見られましたものの、景気は概ね回復基調のまま推移いたしました。一方で、円安の進行に伴う原材料価格の高騰などの懸念が表れてまいりました。世界経済におきましては、米国経済は堅調を維持しておりますものの、中国経済の成長鈍化や、ウクライナ問題、中東問題など、不安要素が拡大してまいりました。

こうした中、当企業グループは、受注の確保と売上の拡大に注力いたしました。

しかし、当初の予想に反し、繊維機械事業では中心市場であります中国市場の回復が見られず、業績は直近の予想を下回りました。工作機械関連事業では、工作機械業界や自動車業界を中心に回復の傾向にはありますものの、期待した伸びには至りませんでした。

この結果、全体では、受注高は22,507百万円（前年同期比38.2%減少）にとどまりました。売上高は26,075百万円（同比7.5%減少）となりました。

損益面では、売上高の減少が大きく影響し、営業損失1,008百万円（前年同期 営業損失692百万円）、経常損失1,059百万円（同 経常損失742百万円）、四半期純損失1,163百万円（同 四半期純損失775百万円）と悪化いたしました。

(繊維機械事業)

繊維機械事業では、中心市場であります中国市場に関しましては、欧米向けの繊維製品輸出の統計が4月頃から回復を示しておりましたことから、第3四半期に向けて設備投資は回復に向かうと見込んでおりました。しかし、フィラメント織物（ナイロン・ポリエステルなど）分野では、内需の不振などから在庫調整が進まず、また、スパン織物（綿など）分野では綿花価格の下落の影響などがあり、総じて低調な動きとなりました。また、金融規制の問題が想像を超えて根深く影響する中で、契約済み案件のL/Cの開設が遅延いたしました。また、繊維製品市場は欧米向け輸出の回復にも関わらず、設備投資は低調に推移いたしました。

この結果、中国市場では受注・売上ともに当初の見通しを大きく下回る結果となりました。中国向けの受注高は6,588百万円（前年同期比67.9%減少）となり、売上高は10,240百万円（同比23.7%減少）と大きく落ち込みました。

また中国の子会社であります津田駒機械製造（常熟）有限公司につきましては、国際繊維機械展示会への出展や、本社で行っておりましたZW408型ウォータージェットルームの生産移管など、常熟ブランドの浸透と売上の拡大を図りましたが、フィラメント織物市場が低迷する状況で厳しい状況を余儀なくされました。

こうした主力市場の減速をカバーするため中国以外の市場の販売に注力いたしました。特に、インド市場では積極的な経済政策を展開する新政権への期待が高く、個人消費、設備投資の改善が見られました。当社は、最新鋭のジェットルームの販売促進を図り、商談は堅調に進みました。また、インドネシア市場でも、電力料金の高騰や人件費の高騰の対策として、省エネや自動化が進んだ最新機種への関心が高まり、商談は活発に進みました。しかし、いずれの市場も銀行の融資状況は依然として厳しく推移しており、L/Cの開設に時間を要しております。

コンジョット機械は、本年3月にパリで開催されました世界最大の炭素繊維機械展示会に初めて出展いたしました。当社の最新の自動積層機械は、高い注目を集め、新規の商談が寄せられております。

この結果、当事業の受注高は16,878百万円（前年同期比46.9%減少）と、大きく落ち込みました。売上高は20,639百万円（同比12.2%減少）と、予想を大幅に下回りました。損益面では営業損失470百万円（前年同期 営業利益58百万円）と誠に遺憾ながら赤字計上を余儀なくされました。

(工作機械関連事業)

工作機械関連事業では、主要な納入先であります日本の工作機械業界の受注高が回復の傾向を強めてまいりました。一方で、この回復を牽引している分野は大手メーカーの輸出向けの汎用加工機が中心となっており、業界の全体としてはまだら模様の状況で推移いたしました。当事業部が手がけております装置分野においても、その効果が徐々に現れておりますものの、得意とする専用加工機の分野では期待した伸びには至りませんでした。

自動車業界ではASEAN諸国、インド、中南米の市場で設備投資案件が浮上してまいりました。米国市場は、引き続き堅調に推移いたしました。そうした中で新しい排ガス規制の対応に向けた設備投資が来年度以降に本格化すると見込まれており、当事業部といたしましても需要の取り込みに注力してまいります。電子機器分野では、新型スマートフォン用のNC円テーブルの販売を進めました。新製品として開発を進めてまいりました新駆動方式を採用したボールドライブ駆動のNC円テーブルは、中核部品の社内加工体制が整い、本格的な販売活動に入りました。

この結果、当事業の受注高は5,628百万円（前年同期比21.6%増加）となりました。売上高は5,436百万円（同比16.1%増加）となりましたが、直近の予想を下回割る結果となりました。損益面では、営業利益276百万円（同比355.0%増加）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ6,345百万円減少し36,089百万円となりました。主な増減は、売上の減少による売上債権の減少であります。負債は、前連結会計年度末に比べ5,240百万円減少し21,188百万円となりました。主な増減は、生産の減少による仕入債務の減少によるものであります。純資産は、四半期純損失1,163百万円を計上したこと等から前連結会計年度末に比べ1,104百万円減少し14,901百万円となり、自己資本比率は38.5%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

繊維機械事業は、中国の金融規制の動向とともに、中国の繊維製品市場の動向を注視しなければなりません。中国繊維製品市場では、フィラメント織物分野では在庫調整がなかなか進まず、設備投資の足かせとなっております。また、スパン織物分野では、原料の綿花価格の下落に伴い、設備投資はまだら模様となっております。こうした状況は当面継続すると想定して、対応しなければなりません。

そのために、かねてより展開しておりますグローバルサービスネットワーク（GSN）の機能を強化し、インド、インドネシアをはじめ、日本や欧州市場など中国以外の市場の需要掘り起しを一層図ってまいります。特に、省エネ性能や省人・省力化性能を取り入れた最新型ジェットルームを積極的にアピールして販売を展開してまいります。また、部品販売の拡大にも注力してまいります。

工作機械関連事業は、工作機械メーカーの回復に伴う装置需要を積極的に取り込んで、受注・売上の拡大を図ってまいります。また新排ガス規制に対応した設備投資の取り込みを積極的に図ってまいります。さらに、海外の販売網を一層強化して、市場変化に対応してまいります。

通期の予想につきましては、中心市場であります中国市場の落ち込みを取り戻すことは困難と判断しております。また、工作機械関連事業は、回復傾向にはありますものの、当初予想した伸びには至っておりません。このため、誠に遺憾ながら、通期の業績予想につきましては、売上高は35,500百万円とし、損益面では営業損失1,400百万円、経常損失1,450百万円、当期純損失1,550百万円と下方修正いたします。皆さまには大変申し訳なく存じますが、今後とも業績の立て直しに最大限の努力をしてまいりますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

第2四半期連結会計期間において、当社100%出資連結子会社であるツダコマ運輸株式会社及びツダコマ・ゼネラル・サービス株式会社は、平成26年3月1日付けでツダコマ・ゼネラル・サービス株式会社を存続会社とする吸収合併を行ないました。これにともないツダコマ運輸株式会社を連結の範囲から除外しております。

当第3四半期連結会計期間において、経緯津田駒紡織機械(咸陽)有限公司の重要性が増したため、持分法適用の範囲に含めております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年11月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,816	9,526
受取手形及び売掛金	16,024	7,556
製品	1,498	1,480
仕掛品	2,239	2,525
原材料及び貯蔵品	1,211	1,276
その他	407	390
貸倒引当金	△10	△10
流動資産合計	29,186	22,745
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,127	3,990
機械装置及び運搬具(純額)	2,158	2,114
土地	3,766	3,826
建設仮勘定	21	47
その他(純額)	307	308
有形固定資産合計	10,381	10,288
無形固定資産	54	54
投資その他の資産		
投資有価証券	2,587	2,690
その他	645	732
貸倒引当金	△419	△421
投資その他の資産合計	2,813	3,001
固定資産合計	13,249	13,344
資産合計	42,435	36,089

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年11月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年8月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,653	2,750
短期借入金	6,452	6,321
未払法人税等	58	21
賞与引当金	—	378
受注損失引当金	84	—
未払金	7,105	4,604
その他	1,781	1,168
流動負債合計	20,135	15,245
固定負債		
長期借入金	1,828	1,443
退職給付引当金	4,335	4,329
役員退職慰労引当金	28	26
環境対策引当金	32	32
その他	69	111
固定負債合計	6,293	5,943
負債合計	26,429	21,188
純資産の部		
株主資本		
資本金	12,316	12,316
資本剰余金	3,880	3,880
利益剰余金	△299	△1,573
自己株式	△1,237	△1,237
株主資本合計	14,659	13,385
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	125	206
繰延ヘッジ損益	8	△0
為替換算調整勘定	202	318
その他の包括利益累計額合計	336	524
少数株主持分	1,009	991
純資産合計	16,006	14,901
負債純資産合計	42,435	36,089

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
四半期連結損益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年12月1日 至平成25年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年12月1日 至平成26年8月31日)
売上高	28,185	26,075
売上原価	25,537	23,640
売上総利益	2,648	2,434
販売費及び一般管理費	3,340	3,443
営業損失(△)	△692	△1,008
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	31	31
投資有価証券売却益	22	0
受取保険金	3	61
その他	22	33
営業外収益合計	81	128
営業外費用		
支払利息	61	61
持分法による投資損失	—	96
為替差損	61	10
その他	8	10
営業外費用合計	131	178
経常損失(△)	△742	△1,059
特別利益		
固定資産売却益	0	16
特別利益合計	0	16
特別損失		
固定資産処分損	3	2
ゴルフ会員権評価損	0	2
特別損失合計	4	4
税金等調整前四半期純損失(△)	△746	△1,046
法人税、住民税及び事業税	17	18
法人税等調整額	3	113
法人税等合計	20	131
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△767	△1,178
少数株主利益又は少数株主損失(△)	8	△14
四半期純損失(△)	△775	△1,163

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年12月1日 至平成25年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年12月1日 至平成26年8月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△767	△1,178
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	407	80
繰延ヘッジ損益	△2	△9
為替換算調整勘定	151	△70
持分法適用会社に対する持分相当額	—	△57
その他の包括利益合計	556	△57
四半期包括利益	△211	△1,235
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△224	△1,219
少数株主に係る四半期包括利益	13	△15

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成24年12月1日 至 平成25年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	繊維機械 事業	工作機械 関連事業	合計	調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 2
売上高					
外部顧客への売上高	23,502	4,682	28,185	—	28,185
セグメント間の内部売上高 又は振替高	361	—	361	△361	—
計	23,864	4,682	28,546	△361	28,185
セグメント利益又は損失(△)	58	60	119	△811	△692

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメントに配賦していない全社費用△811百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っています。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成25年12月1日 至 平成26年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	繊維機械 事業	工作機械 関連事業	合計	調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 2
売上高					
外部顧客への売上高	20,639	5,436	26,075	—	26,075
セグメント間の内部売上高 又は振替高	407	—	407	△407	—
計	21,046	5,436	26,483	△407	26,075
セグメント利益又は損失(△)	△470	276	△193	△814	△1,008

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメントに配賦していない全社費用△814百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っています。